

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	診療情報管理・分析学
学籍番号	20S3045	院生氏名	高橋 幸恵
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	ICHI を用いた前腕骨折患者を対象にした 1 入院当たり包括評価の開発に関する研究		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本研究の意義は、医療行為の国際分類である ICHI(International Classification of Health Intervention)が国内導入される場合の問題点を明らかにしたこと、医療行為について ICHI を用いることにより前腕骨折患者を対象とした新たな 1 入院包括評価の可能性を明らかにしたことにある。</li> <li>研究目的は、ICHI を用いた 1 入院当たりの包括評価の開発を行うことにあり、研究方法は、医療行為分類に関して診療情報管理士にインタビュー調査を行い、さらに、前腕骨折観血的手術の実施患者 205 件の DPC データを対象に多変量解析を用いて包括評価の分析を行っている。</li> <li>研究結果は、インタビューより ICHI 導入時は診療情報管理士への教育が必要という意見が強調され、他にシステムの対応や他職種理解が必要であることを検証した。そして、ICHI を用いた 1 入院包括評価の開発において DPC データを対象とした重回帰分析から診療点数に影響がある項目についてモデルを構築した結果、現行の DPC 制度では 2 診断群に分類されていた前腕の骨折について、5 診断群に分類される 1 入院包括評価が検討された。さらに、手術および予定入院について食事介助の有無を ICHI でコーディングすることで 1 入院包括評価の開発の可能性を示唆した。</li> <li>倫理的問題への対処は、本学研究倫理委員会の承認(20-Io-162)を得た後、研究対象施設の倫理審査委員会の承認と病院長の承認を得て実施している。</li> <li>本研究の新規性は、インタビューを通して ICHI が国内に導入される場合における問題点を検証したこと、手術および予定入院について食事介助の有無を ICHI でコーディングすることで 1 入院包括評価の開発可能性を検証したこと、わが国における ICHI 導入可能性に貢献する研究として高く評価できる。</li> </ul> <p>2. 審査会経緯</p> <p>審査会は都合 3 回開催した。初回審査では、論旨の展開、研究方法、記載内容他について論文の修正を求めた。第 2 回目の審査では、指摘事項に基づき再提出された論文について、研究方法等は適正に修正されたものの、論旨の展開について再度の修正を求めた。第 3 回目の審査において、提出された論文の論旨の展開について確認したところ適正に修正されていた。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>3回の審査会の口頭試問において質問者からの質疑に適切に応答した。</p> <p>4. 可否を記載する。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(診療情報管理学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 羽田 明浩</p> <p>副 査 埴岡 健一</p> <p>副 査 篠原 信夫</p>		